

ニート予防をめざした金銭基礎教育プログラム 「MoneyConnection®」

特定非営利活動法人「育て上げ」ネット 若年支援事業部 教育支援担当課長 松野 賢太郎

【はじめに】

今回、金銭基礎教育プログラム MoneyConnection®をご紹介します。誠にありがとうございます。先に正直に申し上げますと、私が高校の家庭科の授業で記憶していることはライフプラン作成の授業だけです。プリントを1枚渡され、そのプリントに何を書けばよいのか全く分からず、白紙で提出したら、その場で突き返されてしまったことです。「そんな先のことを想像しても、その通りになるわけがない。そんなのはプランではなく妄想でしかない」と持論を述べましたが、当然、受け入れられることもなく、呆れられて終わりました。この単元の狙いである“目標を設定し目標達成に向けて学校生活を前向きに送ることを意識させる”という意図を全く汲み取れなかった思春期の思い出です。卒業後、フラフラと放浪していたら、27歳の時に現職にたどり着きました。これまでに13社の企業、機関や団体で40職種以上の業務に従事してきており、現在は学校に週3日程度訪問しています。さらに偶然が重なり、このように皆さまと接点を持つことに感謝しつつ、全国でのべ約600校、約60,000名（平成25年3月末現在）の生徒に提供してきたこのプログラムについて紹介します。

また、プログラムを紹介するにあたり、一言添えさせていただきます。「ニート予防をめざした金銭基礎教育プログラム」というタイトルをご覧になり、ご自身に関わる環境とは無関係と思われる方もおられるかもしれません。しかしながら、大卒でも無職になる時代、学歴や職歴に関係なく些細なキッカケで誰しもがニート化に陥る可能性があることを踏まえ、広い対象に向けたプログラムであることをご理解いただき、お読みいただければ幸いです。

1. 若者をとりまく社会状況と「育て上げ」ネットの若者支援

昨今、若者をとりまく社会状況は厳しいと言われつつ、新聞やTVの報道番組でも総じて若者の雇

用問題や大学等の中退問題が取り上げられています。総務省「労働力調査」（平成24年）によると若年無業者（15～34歳の非労働力人口のうち、家事も通学もしていない者）の数は63万人と発表されました。失業率関連では、平成23年の若者の失業率が8.2%で全世代の4.6%と比べ大幅に高いことや長期失業率についてはOECD（経済協力開発機構）の加盟国の平均を超えており、1年以上の失業者が失業者全体（15～24歳）に占める割合は3人に1人です。これらがそのまま若者の意識に影響し、働くことに不安を感じており、将来に希望を持ってない若者が8割にもなっています。

私が所属するNPO法人「育て上げ」ネットは、このような状況を社会課題と捉え、すべての若者が社会的所属を獲得し、「働く」と「働き続ける」を実現できる社会をめざして、困難を抱える若者の課題を解決し、彼らの持続的な社会参加と経済的自立の支援を行っています。日頃から支援を必要とするニート状態にある若者と接していると気づかされることが多くあります。その一つは、誰一人として望んでニート状態になっていないことです。他には、若者が困難を抱えてから支援（対処）するだけでは、根源的にこの社会課題を解決するには不十分であることなどです。彼らの想いや考えを聞くと、早い段階でニート状態に陥らないための予防支援の必要性を高く感じ、現在は高校生や学生を対象にキャリア教育などの支援も積極的に行っています。

2. ニート化予防とお金の話

約10年前の話ですが、「育て上げ」ネットの支援プログラムに参加している20代の男性と職員で、これからの自立について話し合いました。この男性が「一人暮らしをしたいと考えている」と職員に伝え、その職員は「一人暮らしにどれぐらいのお金が必要だと思う？」と返しました。すると、彼は少し考えながら真剣に「アルバイトで3万円稼げばやっていけると思う」と答えました。思わず哑然として

しまいましたが、彼がなぜ3万円で一人暮らしができるかを問うと、彼は3万円の使い道を詳細に教えてくれました。そこで一言、「それってお小遣いが3万円あれば生活できるって思っているんだね」と彼の言葉を要約しました。そして、家賃、光熱費、食費や税金・社会保険も必要になることを教えると、男性が一言このように言いました。「知らなかったです。学生の時に知っていれば、今のような金銭感覚や状況になってなかったかもしれない…」と。法人職員の間でこの話を共有すると、この男性だけでなく複数のプログラム参加者と同様のやり取りがあったことも判明しました。この男性のようにニート状態に陥る一因には「お金に関する正しい知識や金銭感覚の欠如」があることに着目し、ニート化予防の観点から金銭基礎教育プログラム開発への取り組みがはじまりました。

3. 金銭基礎教育プログラム MoneyConnection®とは

MoneyConnection®は、主に社会に出る一步手前の高校生を対象にニート予防をめざした金銭基礎教育プログラムとして、NPO法人「育て上げ」ネットと新生銀行グループが協働で平成18年に開発しました。

プログラムを通じて、生徒が生きていくために必要となるお金や物の価値について考え、多様化する雇用形態や、働き方による生活スタイルの違いを知り、より長期的な視野で「お金」と「人生」について考える機会を提供することを目的としています。

このプログラムは“お金と仕事”について学ぶ「稼ぐ」編、“モノの価値と自分の価値観”について学ぶ「使う」編で構成され、各々1コマ50分で実施できる内容となっています。一人暮らしを始めたら生活費がいくらかかるのかを予想し、年齢、職業、雇用形態、月収などを設定したカードを使いながら将来の生活をシミュレーションし、グループで話し合うことで、楽しみながらお金の本質を考えます。

プログラムの概要は以下の通りです。

(1) 「稼ぐ」編の概要

①一人暮らしに必要な金額（生活コスト）を考えてみよう

一人暮らしをするには、お金がかかることを感じさせ、実際に何にどれくらいお金がかかるのかを知ることができます。また、一人暮らしに必要なお金

の相場が1ヵ月20万円程度であることを認識させます。

【使用教材：図1】

生活費の項目(項目)	毎月の必要金額	現在の金額
家賃 ホームステイ・シェアハウス等	円	円
水道・光熱費 水道料・ガス・電気・暖房・冷暖房・水道料	円	円
食(材)費 食料・食料品・外食・飲み物	円	円
交通費 お通学や「家」へ通うための交通費	円	円
娯楽費・教育費・雑費など お楽しみ・お祝い金・お祝い金・お祝い金・お祝い金	円	円
通信費 携帯電話・固定電話・インターネット・ケーブルテレビ	円	円
衣履費 お洋服・お洋服・お洋服・お洋服・お洋服	円	円
通信・健康保険 国民健康保険・国民健康保険・国民健康保険・国民健康保険	円	円
生活安全(火災・盗難) 火災保険・火災保険・火災保険・火災保険	円	円
貯蓄金 お金の貯蓄・お金の貯蓄・お金の貯蓄・お金の貯蓄	円	円
その他(お金の貯蓄・お金の貯蓄・お金の貯蓄・お金の貯蓄)	円	円
1ヵ月の合計金額	円	円

②働き方と収入から生活スタイルをシミュレーション

カードを使って稼ぎ方（時給・日給・月給）／働き方（フリーター・派遣社員・正社員）と収入を設定します。その収入を得るためには、何時間働かなくてはならないのか、生活スタイルはどうなるのかをシミュレーションします。

【使用教材：次頁図2～4参照】

③10年後、20年後の暮らしをシミュレーション

働き方が同じ生徒同士でグループを作り、カードによって家族や年齢など「生活条件」を設定します。10年後・20年後の生活をイメージします。「今」だけでなく、将来のことを考えて稼ぎ方／働き方を選ぶことの必要性を感じさせます。

【使用教材：次頁図5・6参照】

④プログラム全体の振り返り

講師からメッセージを伝えます。

図2

Figure 2 shows 'ワークシート1 [時給制・フリーター]' (Worksheet 1 [Hourly wage/Freelance]). It contains five steps for calculating income and expenses:

- Step 1:** Record the number of hours worked in the previous month. Fields for '月給' (Monthly salary), '時給' (Hourly wage), and 'フリーター' (Freelance) are provided.
- Step 2:** Record the total income for the month. Fields for '月給' (Monthly salary), '1000円' (1000 yen), and '時間' (Time) are provided.
- Step 3:** Calculate the total income for the month. Fields for '1ヶ月の時間' (1 month's time), '2ヶ月の時間' (2 months' time), and '3ヶ月の時間' (3 months' time) are provided.
- Step 4:** Record the total expenses for the month. Fields for '月給' (Monthly salary), '1000円' (1000 yen), and '時間' (Time) are provided.
- Step 5:** Calculate the total income and expenses for the month. Fields for '1ヶ月の時間' (1 month's time), '2ヶ月の時間' (2 months' time), and '3ヶ月の時間' (3 months' time) are provided.

図5

Figure 5 shows 'ワークシート2 感想シート' (Worksheet 2 Thought Sheet). It contains four steps for reflecting on the experience:

- Step 1:** Record the number of hours worked in the previous month. Fields for '月給' (Monthly salary), '時給' (Hourly wage), and 'フリーター' (Freelance) are provided.
- Step 2:** Record the total income for the month. Fields for '月給' (Monthly salary), '1000円' (1000 yen), and '時間' (Time) are provided.
- Step 3:** Record the total expenses for the month. Fields for '月給' (Monthly salary), '1000円' (1000 yen), and '時間' (Time) are provided.
- Step 4:** Record the total income and expenses for the month. Fields for '1ヶ月の時間' (1 month's time), '2ヶ月の時間' (2 months' time), and '3ヶ月の時間' (3 months' time) are provided.

図3



図4



図6



(2)「使う」編の概要

①商品を「必要なモノ」と「あった方がいいモノ」に分類，金額を予想

グループを作り，一人ひとりがワークシートにある商品を「必要なモノ」と「あった方がいいモノ」に分類します。それぞれの商品を購入するための必要金額も予想し記入します。各商品の目安金額を発表し，自分の予想金額と目安金額を比べます。

【使用教材：次頁図7・8参照】

②指定した商品が「必要なモノ」か「あった方がいいモノ」なのかを考えよう

グループごとに決められた商品について，必要かどうかを考えるワークです。グループ内で「必要なモノ」か「あった方がいいモノ」なのかを話し合う

ことで，自分と他の人の価値観の違いを意識します。

【使用教材：次頁図9参照】

③将来の生活をシミュレーション！価値観は変わった？

カードを使って年齢・職業・家族構成・住んでいる地域を設定します。その状況で改めて自分にとって必要かをグループ内で話し合い，職業や立場，地域によって「必要なモノ」が変化することを実感できます。

【使用教材：図10～13参照】

④プログラム全体の振り返り

講師からメッセージを伝える。

ワークシート 1

[illegible]

ワークシート 2

実施日 年 月 日 く じ 年 組 番 決り:

step 2 二枚からグループで話し合う商品を選びてみよう。

step 3 step 2 で選んだ商品は、あなたにとって必要なものか
あった方がいいものか？ その理由も書いてみよう。

☐ 必要なもの ☐ あった方がいいもの

step 4 本日の教材「ミニエッセイレーションカード」を記入してみよう。

名前	性別

step 5 「ミニエッセイレーションカード」を書いて、本日の「感想」があった方がいいか？
良かった？ 良かったななかった？ その理由や思ったことを書いてみよう。

☐ 良かった ☐ 良かったななかった

シミュレーション
カード

シミュレーション
カード

シミュレーション
カード

年齢	職業
26歳	一般事務
年齢	住人/結婚地
結婚相手	東京都

(1) 稼ぐ編

自分の部屋があり、だれかが食事を3食用意してくれるような生活が当たり前になっているかもしれませんが、しかし、実は当たり前のことではなく、このような日常のことにも費用が発生しており、生きていくにはお金が必要なことを再確認します。

よく言われるのは「怪我や病気をしたときに蓄えが必要」ですが、ここでは「将来の可能性や選択肢を狭めないための蓄え」に主眼をおいたメッセージにしています。何か新しいことを始めようとすると準備期間から出費があることなど、受験準備や就職活動の実例を紹介し、貯蓄の大切さを意識づけします。

ある民間団体の調査によると8人に1人の学生が大学を中退していると言われています。その理由として挙げられているのは、学習意欲の喪失、人間関係、関心の移行や不本意入学などのようです。また、厚生労働省「新規学卒就職者の在職期間別離職率の推移」によると、3年目までに離職している割合は、高卒者35.7%、短大等卒者39.3%、大卒者28.8%となっています。離職理由は仕事上のストレス、長時間労働、職場での人間関係などが要因でした。

このように中退や早期離職する若者には共通点が

あります。その道に進む前に新しい環境での5W1Hの要素を正確にイメージができなかったため、結果としてミスマッチが起きてしまい辞めているということです。「慎重に選ぶということは、その道に進んだ自分の姿を正確にイメージし、納得できることを選ぶこと。正確にイメージできなければ、できるようになるために情報収集することが大事。イメージできないまま安易な選択をすると、その後の人生が大きく変わってしまう可能性が高い。だから、進路は慎重に選ぶ必要がある」と伝えます。合わせて、そこには必ずお金が関わってくることも補足します。

(2) 使う編

◆必要なモノと欲しいモノの違いを知る

まず、生活を営む上で必要不可欠なモノと個人の欲求を満たすために欲しいモノが存在することに気づいてもらいます。また、年齢、職業、居住地、家族構成などの環境変化によって、必要なモノや欲しいモノが変わったことを確認し、少し先の生活も見通して必要なモノから購入するという優先順位をつける大切さも伝えます。

◆商品を比較する

今の日本は多種多様なモノで溢れています。そのおかげで、ひとつの商品を購入するにしても、値段、機能やデザインを見比べられます。また、どこのお店で購入するかも消費者が選べます。このような消費者に優しい条件が整っていることを具体的な事例を交えつつ確認し、商品を比較することで得られる効果として無駄遣いを減らせることを伝えます。

◆貯蓄も大事

優先順位をつけ、商品を見比べることで節約につながります。このように節約したお金を欲しいモノの購入に充てることもできますが、貯蓄も大事であることを伝えます。なぜなら、生活環境の変化やトラブルは予測もできず突然訪れることが多く、まさしく「備えあれば憂いなし」の言葉の通り、お金がこれらの対応や解決するひとつのツールになるからです。

(3) 総括

シミュレーションを通じて、お金をどのように稼ぎ、どのように使って生活するかを考えられたことを確認します。また、シミュレーションの設定が自身にとって望む将来に近ければ、今、そうなるために何をすべきか、望まない将来であれば、そうなら

ないためにできることを考えることで現実的なライフプランを描く第一歩につながると伝えます。

5. プログラムの特長

このプログラムは対象となる生徒の状況や学校環境に配慮し開発されました。主な四つの特長を、以下に紹介します。

①生徒参加型の体験プログラム

聞かされるだけの一方的な講義スタイルの場合、そのプログラムに強い関心を持ってないと、内容をリアルに感じたり、参加意欲を維持したりすることが難しい生徒もいます。私たちの経験では、こうした機会を逃してしまう生徒の中に、特にニート化リスクを抱える若者が多く存在すると感じています。そこでこのプログラムでは、講師が話す時間を極力短くし、その分、生徒がワークシートに記入したり、カードを引いたりしながら主体的に参加できるようにしています。



②全てリアルなシミュレーションで進行

近年の社会状況の変化により、クラスの中には経済的にも生活環境的にも課題を抱えている複数の生徒が在籍していることを先生や学校関係者から伺うことが多くなりました。そのような生徒が抱える現実課題をプログラムに直接持ち込まず済むようにしています。そのかわりに10年後に一人暮らしをしていたら、その時にこんな仕事に就いて、給与がこれぐらいだったらなどの設定を所定のカードで決めながら、プログラムを進行します。このように将来の生活をシミュレーションする事で生徒が具体的にイメージしやすく、深く考えることが可能になります。



③大人の期待（想い）を伝えるのではなく情報提供

若者をとりまく社会状況が多様化・複雑化する中で、“大学に進学して正社員になれば良い”という期待を生徒に伝えても、それがすべての生徒の将来にとって有益であるかどうかはわかりません。具体的な答えは持たないにせよ、直線的なキャリアパスだけでは生きていくことが難しい社会ということをなんとなく感じている生徒も多くいます。そうした生徒にとっては大人の期待を素直に受け入れ難いかもしれません。そこでこのプログラムでは、この先、“こんなでき事が起きるかもしれない”、“こんな状況を経験している人もいる”など将来の生活を考える材料をさまざまな角度から情報として提供します。情報提供に徹することで生徒自身が“自分の将来をリアルに考えるきっかけ”につながるように工夫しています。

④学校環境への適応



学校ごとに異なる実施形態・時間の設定、教科指導・特別活動等の導入の位置づけや生徒の発達段階などの事情に合わせて、プログラムの提供方法は柔軟に対応可能です。対応例は以下のとおりです。

◆複数クラス対象にクラス別同日同時刻実施

プログラム運営に関する研修を修了した専任講師が、全国に約120名在籍しています。それにより各クラスに講師を配置し、同じ時間帯に同じ内容を提供することが可能です。

◆学年全体・複数クラス合同を対象に体育館等での実施

大会場・大人数対象（1会場あたり400名程度まで対応可能）の実施に対応できる教材を備えており、教育効果を下げずにプログラム提供が可能です。

◆複数日数に分けて実施

家庭科などの授業の一環で実施する場合、時間割



の関係で複数日数にまたがったとしても、複数の講師体制（関東・中部・関西・沖縄など多数の講師が所在する地域に限る）で提供できます。

◆生徒の発達段階や導入目的に合わせた進行とメッセージ

a) プログラム進行

通常50分間の実施時間ですが、生徒の発達段階や学力レベルに合わせ、1プログラムあたりの実施時間を調整することも可能です。

b) メッセージ

上記で述べたプログラムメッセージに学年や生徒の状況を考慮したメッセージを合わせて伝えることができます。

6. 家庭科教育の中での活用例

以下に2校の活用例と先生からのプログラム評価を紹介します。

(1) 東京都立A高等学校（全日制・普通科）

◆対象：2年生

◆単元：家庭総合「経済的に自立する」

◆実施プログラム：「稼ぐ」編と「使う」編

◆実施時限：2時限連続（100分）

◆授業の狙い：生徒の就労意識や職業理解を深め、生活の基盤としての家計管理の重要性を学び、将来設計を考え始める機会を提供する。

◆効果：事後に予定しているライフプランシート作成に生徒が現実的にとりくむ素地ができた。さらに、一部の生徒には現在の高校生活の過ごし方と将来のつながりを認識し、日常の学習意欲も向上する傾向が見受けられた。

(2) 京都府立B高等学校（全日制・普通科）

◆対象：2年生

◆単元：家庭基礎「経済的に自立する」

◆実施プログラム：「稼ぐ」編

◆実施時間：1時限（50分）

◆授業の狙い：経済的に自立するために必要なお金について学び、お金という身近なものから、自分の人生について考えるきっかけを与える。働き方にはさまざまなスタイル（選択肢）があることを伝え、働くスタイルごとの生活をシミュレーションすることを通して、「働くこと」をリアルに学ぶ。

◆効果：生徒は働き方ごとの特徴を理解し、個々に希望する働き方や生活スタイルに関する価値観を確立できた。

(3) 先生のプログラム評価

・生徒が日頃話さない考えや価値観について表現していたことに驚いた。

・これまで家庭経営領域に関しては興味関心が薄い生徒も多かったが、プログラムを導入することで実習や実験の授業と同様の生徒の集中力を引き出せた。

・プログラムを導入したことで、事後にとりくんだライフプラン作成が、個人の希望ばかりに偏らず、現実的な要素を盛り込めるようになっていた。

このようにご評価いただいたポイントは、生徒の主体的な参加を促すプログラム特長にあると考えています。上記の他、講義中心で進めていた家庭経営領域の授業内容に変化をつけられ、雇用形態、社会保険制度や税制への生徒の新たな興味関心や学習意欲を引き出すことができたなどの評価をいただいています。

7. 受講後の生徒の感想

事後アンケートなどから把握した生徒の感想と金銭感覚をご紹介します。

・普段は考えることのない観点で、お金と人生について楽しく学ぶことができました。

・一人暮らしに必要な費用の相場を初めて知り、とても参考になりました。

・仮想の自分の職種や収入、家や家族の有無などさまざまな状況から生活費を考えると、あらためて、将来のためにいまずべきことを考えさせられました。

・働くことがイメージできてよかった。また、世の中にはさまざまな働き方があることを知ることができた。

・これまで無駄遣いばかりだったけど、将来のことも考えながらお金を使うようにしていきたい。

・今、こうやって高校生活が送れるのも親のおかげ。親に感謝したい。

また、継続的にプログラムを導入している学校を訪れた際、過去の受講生徒が下級生に「絶対、この授業は面白いよ。だから、授業に出たほうがいい！」と言ってくれることがあります。生徒の記憶に残るプログラムでありたいと思いながら提供していますので、大変うれしく感じています。

8. 生徒の金銭感覚

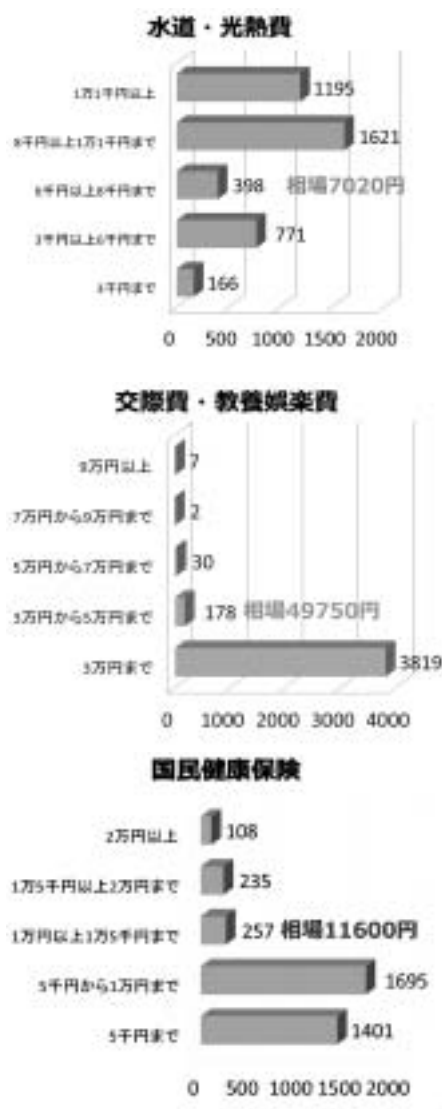
約5,000名の生徒の一人暮らしを予想するワークシートを回収し、記入された金額を集計しました。集計結果から見てきた生徒の金銭感覚を紹介します。

相場に比べ高く予想した項目は水道・光熱費、低く予想した項目は交際費・教養娯楽費、税金・社会保険でした。

まず、水道・光熱費が高く予想された要因を推測すると、使用料金が銀行口座から引き落とされることも多くなり、実際に支払っている保護者の姿を見る機会が少なくなっていることです。見当もつかずとりあえず10,000円といったように予想した可能性が高いということです。また、低く予想された交際費・教養娯楽費については、社会人になると行動範囲や交友関係の広がることを想定しづらいことが挙げられます。今の放課後や休日の過ごし方を基準に積算した結果、低くなっていると思われます。相場金額の解説時にどの生徒も驚くのが「社会人になっても勉強する」というフレーズです。生徒は「社会人は仕事をする人」と認識しており、新たな気づき

を得られる支出項目です。税金・社会保険については無記入の生徒も少なくありません。記入したとしても一律5,000円や10,000円と記入するケースがほとんどです。最後に預貯金については、生徒によって金額は異なりますが、ほぼ全員の生徒が金額を記入しています。8,000円以上とワークシートに記載した生徒は6割を超え、貯蓄の意識が高いことがわかりました。

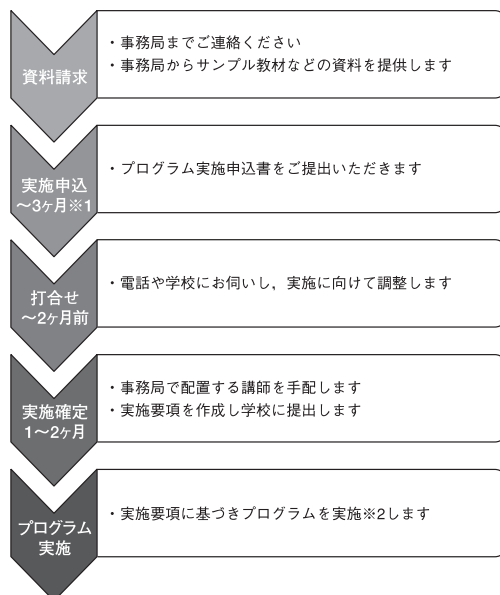
このように生徒はワークを通じて、生活費に関わる支出項目とその相場金額を学び、予想した金額と比較しながら自身の金銭感覚を客観的に自覚することができます。



出典：「16才のための暮らしワークブック」
主婦の友社刊

9. プログラム提供の流れ

プログラム申込から実施までの流れは以下の通りです。



※1 原則、実施申込期日は実施日の3ヵ月前です。また、学校からのご依頼が定期考査前後に重なりやすく、複数の候補日時をご提示いただくようお願いしています。

※2 条件を満たす学校には無償でプログラムを提供します。無償提供の条件は以下のURLより確認ください。

http://moneyconnection.jp/inquiry/20130409_mconf o.pdf

【問い合わせ・申し込み先】

Money Connection® 事務局（NPO 法人「育て上げ」ネット内）

担当：松野賢太郎，朝倉みづほ

〒190-0011

東京都立川市高松町2-9-22 生活館ビル3階

電話：042-527-6051 / Fax：042-548-1368

E-mail: cs@sodateage.net

ホームページ：http://moneyconnection.jp

※ホームページからもプログラムに関するお問い合わせや申し込みが可能です。